



お茶を飲みながら地元の歴史について談話した「大昔カフェ」

「消えた胡桃澤氏の謎」語る

諏訪 大昔調査会の「カフェ」始まる

諏訪地域に根差した歴史文化を研究する一般社団法人「大昔調査会」は18日夜、歴史や考古学について気楽に語り合う「大昔カフェ」を諏訪市湖岸通りの上諏訪ステーションホテルで始めた。諏訪地域の住民ら約30人が参加し、「消えた胡桃澤氏の謎」をテーマに談話。初の試みとして月1回のペースで集まり、地域の歴史に触れる。

話題を提供したのは、地元歴史文化を探検する「諏訪塾」メンバーの秋山大一さん(64)＝同市四賀＝と矢崎裕子さん(63)＝同市中洲＝。同市豊田有賀と湖南地区の境付近にある「胡桃沢御社宮司社」を取り上げ、諏訪地域に「現在には胡桃澤の名字がほぼない」と切り出した。

秋山さんは大塔合戦をはじめ、諏訪上社の内紛に関わった一族として紹介し、諏訪の地を離れた理由は依然として謎のままであると説明。写真を交えて「佐久には胡桃澤家の墓が多くある」とも語った。

高見俊樹理事長(66)はあいさつで「講演や学習会ではない。参加者も自由に質問したり意見を交わしたりしてほしい」と呼び掛けた。次回の9月15日は諏訪の弥生時代をテーマに行う。(小山真由美)

時代は信濃一円で起きた「大塔合戦」は信濃守護の小笠原長秀と、信濃東部の土豪との争いで、胡桃澤泰時らが活躍した。

高見俊樹理事長(66)はあいさつで「講演や学習会ではない。参加者も自由に質問したり意見を交わしたりしてほしい」と呼び掛けた。次回の9月15日は諏訪の弥生時代をテーマに行う。(小山真由美)